

# ステークホルダによる 合意形成方法の提案

Group J5

2009SE077 石田雄大

2009SE202 濁川 誠

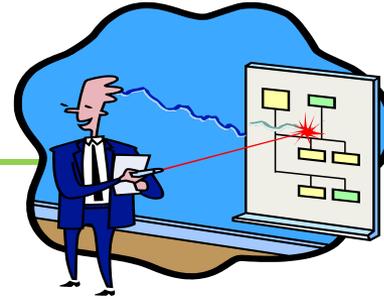
# 目次

- 今回の発表の動機
- 前回の解答(ゴール抽出方法について)
- 優先度付けプロセスの提案
- ゴールの振り分け
- ゴール間の関係
- 今後の方針
- 参考文献

# 今回の発表の動機

## 前回の発表

- 全体の提案プロセスの発表.
- CATWOE分析(ソフトシステムズ方法論)の紹介.



- ・ゴールの抽出にCATWOE分析を用いる.
- ・優先度付けを行うのはゴールだけであり,ステークホルダの優先度付けはしない.

## 今回の発表の動機

- 前回の解答
  - CATWOE分析をゴール抽出方法に選んだ理由を述べるため.
  - Rebookに載っている他の方法と比較するため.
- 優先度付けプロセスの提案
  - 全体のプロセスではなくゴール優先度付けの詳細プロセスを提案するため.
- ゴールの振り分け
  - ゴールの振り分け方を例とともに理解する.
- ゴール間の関係
  - ゴール間の関係性を視覚的に理解するため.



# 前回の解答(ゴール抽出方法について)

## アブダクション(abduction)

- インタビューなどで要求アナリストが得た現実世界の個々の事象に基づき最も適切に説明しうる仮説を導出する。
- インタビューなどで得られた限定的事象から、解釈、仮説、推論を行ってゴールを導出



## 3つのゴール抽出方法

### ゴール指向分析

- ゴールを分解するため詳細的に抽出することが可能だが、ステークホルダの活動に着目した抽出は不可。
- ゴール抽出後のゴール間の関係性を表記する手段として利用する予定。



### アブダクション(abduction)

- ゴールの抽出、選択が話し合いで収支するため、話し合う人によってゴールが変わってきてしまう。



### KJ法

- アブダクションと同様に話し合いで収支するため、選択したゴールの根拠が示されない。



## CATWOE分析を選んだ理由

- 結論となる根拠を **可視化可能**.
- ステークホルダの活動を見ながら抽出することも可能。



- ゴールの整合は最重要。
- 時間をかけるべき項目。
- ゴールの抽出を疎かにしない。
- 疎かにした場合、求めているゴールが抽出される可能性もありうる。



# 優先度付けプロセスの提案

## 優先度付けプロセス

主要ステークホルダから  
ゴールを抽出

ゴールの振り分け

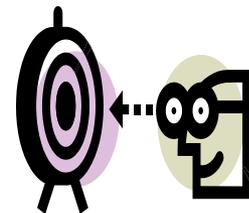
ゴールとゴール間の  
関係を表現

優先順位付け

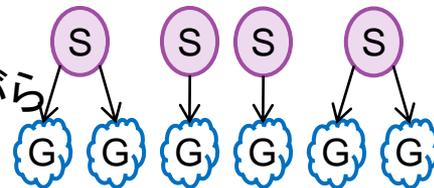


### ゴールを抽出する動機・理由

- ◆ 主要ステークホルダは要求を持っているがゴールをもっていないため、ゴールを各ステークホルダから抽出する。



- ◆ CATWOE分析を用いてステークホルダの活動を整理しながらゴールを抽出する。

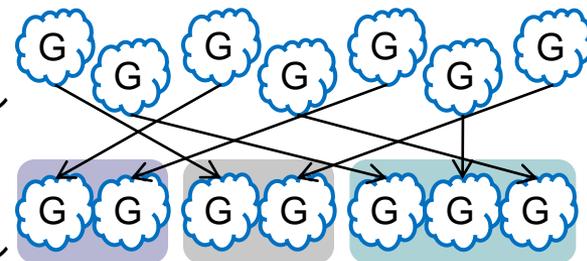


### ゴールを振り分ける動機・理由



- ◆ 「トップゴールを実現するために必要不可欠なゴール」の優先度が低くなる場合を防ぐ。
- ◆ 「トップゴールの実現とは無関係なゴール」の優先度が高くなる場合を防ぐ。

-  = 実現に必要不可欠なゴール
-  = 実現に無関係なゴール
-  = 優先度付けが必要なゴール



# 優先度付けプロセスの提案

## 優先度付けプロセス

主要ステークホルダから  
ゴールを抽出

ゴールの振り分け

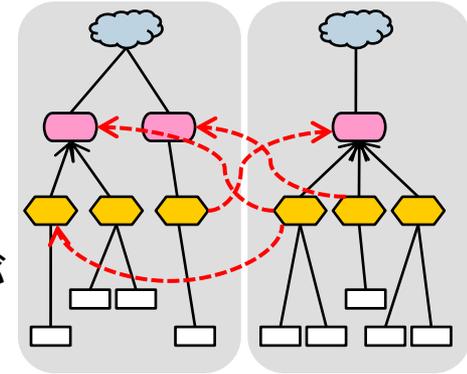
ゴールとゴール間の  
関係を表現

優先順位付け



## ゴール間関係を表現する動機・理由

- ◆ 優先順位付けを行う際に  
ゴール間の依存関係及び、  
依存関係の伝播を考慮するため。
- ◆ ゴールとゴール間の関係を  
視覚化することで一目で関係性が  
わかるようにするため。
- ◆ ゴール分析によりゴールを詳細化するため、  
曖昧だった要求も明確にすることができる。



## 優先順位付けする動機・理由

- ◆ 優先順位付けをすることで、  
最重要視するゴールを見い出すことができる。
- ◆ 各ステークホルダにおける  
ゴールの観点が異なるため、  
全てのゴールを満たすことは不可能である。



# ゴールの振り分け

## 振り分けプロセス



## 振り分け基準

- 無関係なゴールは、トップゴールと関係するかで判断し、根拠を述べて振り分ける。
- 必要不可欠なゴールは、開発者と対象ステークホルダとの話し合いにより決定する。
- 上記以外のゴールを優先度付けの対象ゴールとする。

## 例:ゼミ合宿

**トップゴール:**よく遊び、よく学ぶ合宿にしたい。

### 合宿係

- A:発表する環境が整っている。  
B:皆で遊べる場が欲しい。  
C:花火できる環境が欲しい。

### 先生

- G:景色の綺麗な場所がいい。  
H:宿泊施設がしっかりしている。

### 参加者

- D:24時間風呂に入れるところがいい。  
E:TVゲームが用意されている。  
F:低価格な合宿がいい。

### 代理店

- I:可能な限り安く宿を手配したい。  
J:より多くの参加者が来て欲しい。  
K:宿以外の施設も管理したい。

## 振り分け例

必要不可欠なゴール

A,B

優先度付けが必要なゴール

C,G,H,K

無関係なゴール

D,E,F,I,J

# ゴール間の関係



## 目的

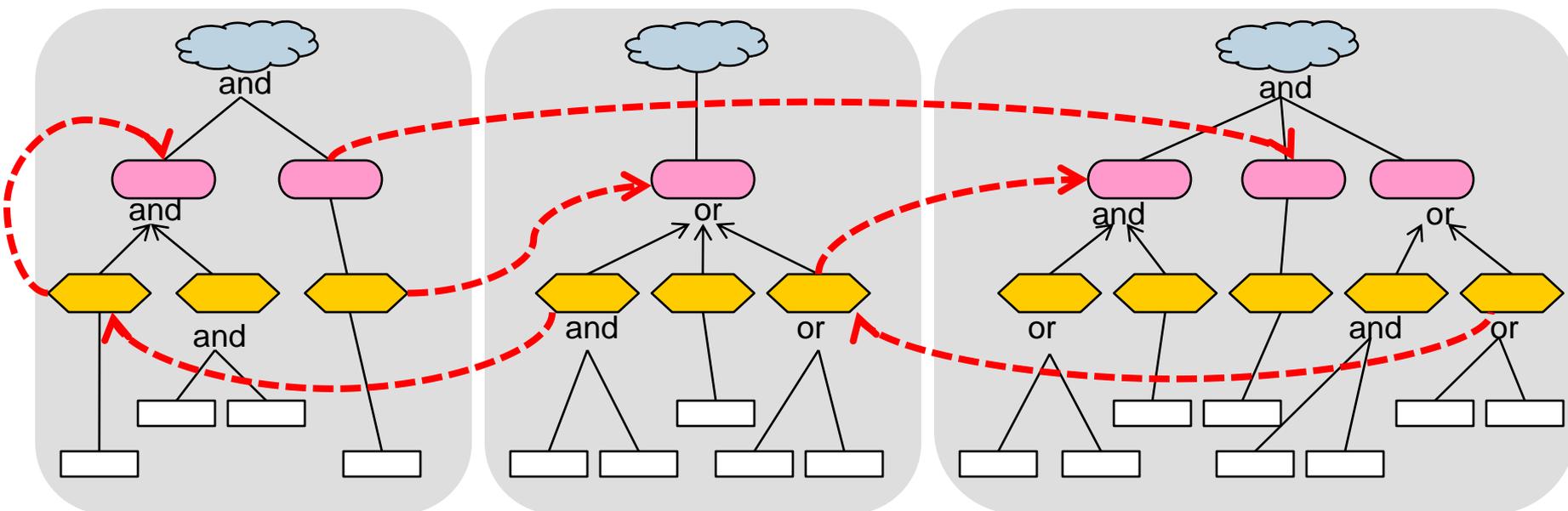
ゴールとゴール間の影響度合いを視覚化する為に、関係を表現する。

## プロセス

各ステークホルダの  
ゴールをゴール分析により  
詳細化

ゴール分析した  
ゴールに貢献度を  
付加

各ゴール間の  
関係をi\*のSR  
(戦略原理)モデル  
を用いて表現



# 今後の方針

## 題目

「ステークホルダによる合意形成方法の提案」

- ゴールの優先順位付け方法を考える.
  - 評価基準を決定する.
  - 評価例として身近の例で優先順位付けしてみる.
- 実例を考え,ゴールの抽出から行ってみる.

# 参考文献

- 要求工学  
著:大西 淳・郷 健太郎
- 要求工学知識体系 (REBOK)
- 2012年度卒業論文要旨集  
「ステークホルダを中心とするゴール分析方法の提案」
- CiNii論文  
電子情報通信学会技術研究報告 SS.ソフトウェアサイエンス  
「ビジネスドメイン分析におけるゴール抽出技法の提案」  
(<http://ci.nii.ac.jp/naid/110003277345/>)